

指導事例5 音楽 聴き手伝わる表現の工夫を促す 第1学年「合唱の喜び」

【題材の構成について】

題材の前半から、音楽を形づくっている諸要素と関連させた表現の工夫を考える活動「要素Ⅰ」を位置付け、その後、各自の構想の伝え合い「要素Ⅱ」を行う。そして、伝え合いを基に合唱の練習を行い、創意工夫を表現に生かす展開となっている。さらに、言語活動を支える基盤として、生徒が音楽特有の言語について、実感を伴って理解できるように、題材の前半から楽譜への書き込みについて指導する。

1 題材の目標

リズム、テクスチャ、形式、構成、強弱などが生み出す特徴を歌詞と関連付けて考え、曲のもっている魅力や美しさを感じ取りながら創意工夫して表現する。

〈教材「夢の世界を」(芙龍明子 作詞/橋本祥路 作曲)「cosmos」(ミマス作詞・作曲/富澤裕 編曲)〉

2 題材の評価規準

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
歌詞の内容や曲想に関心をもち、音楽表現を工夫して表現することに主体的に取り組もうとしている。	歌詞の内容と曲想との関連を考え、それらを感じ取ってどのように創意工夫して表現したいか自分の考えをもっている。	創意工夫をした音楽表現をするために必要な技能を身に付けている。

※ 言語活動の評価の観点とは、「思考・判断・表現」を中心とする。

3 題材の展開（全8時間）

次	時	学習活動	言語活動に関する指導上の留意点	評価の観点
第1次	第1時	○「夢の世界を」の歌詞を読み、曲の感じをつかみ、イメージを書く。 ○リズム打ちと休符打ちをする。 ○6/8拍子を理解する。 ○パート練習、合唱練習をする。	・歌詞から受ける印象を書く時に、ただの感想にならないように、どのように表現したらよいかという考えを書くように促す。	音楽表現の創意工夫
	第2時	○前時に書いた印象と表現についての発表をする。 ○パート練習、合唱練習をする。	・学級の人々の発表内容で共感する部分について自分の書いた文章に赤でアンダーラインを引かせて共感を大切にするとともに、自分だけの考えを区別できるようにする。	音楽表現の技能
第2次	第3時	○「cosmos」の歌詞を読み、曲の感じをつかみ、イメージを書く。 ○リズム打ちと休符打ちをする。 ○パート練習、合唱練習をする。	・歌詞から受ける印象を書く時に、ただの感想にならないように、どのように表現したらよいかという考えも書くように促す。	音楽表現の創意工夫
	第4時	○前時に書いた、合唱曲の印象と表現について発表する。 ○「夢の世界を」の復習をする。 ○「cosmos」のパート練習、「cosmos」の三部合唱の練習をする。	・歌詞から受ける印象を書く時に、ただの感想にならないように、どのように表現したらよいかという考えを書くように促す。	音楽表現の技能
	第5時	○「cosmos」の復習、「夢の世界を」の復習をする。	・自分の考えを伝え合い、工夫して表現させる。	音楽表現の技能
第3次	第6時（本時）	○自分たちはどう歌っているのかという現状と、これから目指すべき合唱曲の完成に向かって歌詞の内容と曲想を関連させ、表現方法を考える。 ○「cosmos」を創意工夫し、歌う。	・自分たちの考えている表現が、聴き手に伝わる歌い方になっているのか、考えさせる。	音楽表現の創意工夫
	第7時	○自分たちの合唱（「夢の世界を」）はどう歌っているのかという現状とこれから目指すべき合唱曲の完成に向かって歌詞の内容と曲想と関連させ、どのように表現したらよいか考える。 ○「夢の世界を」を創意工夫し、歌う。	・自分たちの考えている表現が、聴き手に伝わる歌い方になっているのか、考えさせる。	音楽表現の創意工夫
	第8時	○「夢の世界を」を創意工夫し、歌う。 ○「cosmos」を創意工夫し、歌う。	・今回の学習を通して、曲に合った創意工夫ができるようになったのか、まとめる。	音楽への関心・意欲・態度 音楽表現の技能

※ 網掛けは、「思考・判断・表現」に関わる「言語活動に関する指導上の留意点」とする。

4 本時の学習（第6時）

【本時における言語活動】

「要素Ⅰ 自己の思考」…歌詞の内容と曲想との関連を考え、表現方法の工夫を言葉で表現する。

「要素Ⅱ 伝え合い」…各自の考えた表現方法の工夫を発表し、ホワイトボードに生徒が自己の思考と他者の思考を比較できるようにまとめる。

「要素Ⅲ 思考のまとめ」…本時では重点的に扱わない。

(1) ねらい

歌詞の内容と曲想との関わりを考えて、聴き手に伝わるように表現とするために創意工夫して歌う。

(2) 本時の展開

	学習活動	◇指導上の留意点〔評価〕 評価規準【観点】（評価方法）
導 入	1 前時の学習を思い出す。	◇自分たちの合唱をこれからどのように仕上げていくのか考えるように促す。
	2 本時のめあてをもつ。	
	歌詞の内容と曲想との関わりを考えて、聴き手に伝わるように表現しよう	
展 開	3 「cosmos」を通して歌う。	<p>基盤：学数情報の獲得</p> <p>◇〔共通事項〕から声、強弱について、働きが生み出す雰囲気を感じさせる。</p> <p>基盤：学習情報の獲得</p> <p>◇歌詞の内容と曲想について関連付けて考えさせる。 〔評価〕⇒ 声や速度、強弱を根拠にし、自分の考えをもつことができる。 【音楽表現の創意工夫】（観察）</p>
	4 合唱について、歌詞の内容と曲想を関連させ、どのように表現したらよいか考える。 要素Ⅰ 自己の思考 ・合唱表現についてよい点と改善点を書く。	
	5 書いたことを発表する。 要素Ⅱ 伝え合い ・学級全体で意見交換をする。	
	6 工夫した音楽表現をするために部分練習を行う。	<p>基盤：学習情報の獲得</p> <p>◇歌詞の内容と音楽の特徴について関連付けて考えさせる。 ◇発表した意見をホワイトボードに記入し、生徒が自己の思考と他者の思考を比較できるようにする。 ◇自己の思考と他者の思考を比較し、音楽を形づくっている要素を基によりよい音楽表現の工夫を考えさせる。 〔評価〕⇒ 響き、速度、強弱を根拠にした考えをもっている。 【音楽表現の創意工夫】（観察）</p> <p>◇自分たちで考えた音楽表現の工夫を生かした練習ができるよう、具体的手法を示す。 例) 効果的なfを出すためのクレッシェンドの歌い方 ブレスの場所 休符の取り方 など</p>
ま と め	7 創意工夫し、「cosmos」を通して歌う。	◇自分たちの歌声が聴き手に伝わる合唱により近づくことができたか考えることができるよう、最初に通して歌ったときと比較できるようにする。

【活用のポイント】

- ・ 感受した「思い」等に音楽を形づくっている要素〔リズム、テクスチャ、形式、構成、強弱〕を根拠付けて考えさせる。
- ・ 伝え合いにおいては、話し合いの形にこだわらず、自己の思考と他者の思考を比較することができるように工夫する。
- ・ 練習では、創意工夫した内容を音楽表現につなげることを目的とする。